平成 26 年度

事業報告書

事業報告の附属明細書

公益財団法人かわさき市民活動センター

平成26年度

事業報告書

1 当法人の現況に関する事項	1
(1) 事業の経過及びその成果	1
(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況	1
(3) 主要な事業内容	1
(4) 重要な契約に関する事項	1
(5) 職員に関する事項	2
(6) 役員会等に関する事項	2
(7) 対処すべき課題	3
2 役員等に関する事項	4
(1) 理事	4
(2) 監事	4
(3) 評議員	4
(4) 役員等の報酬	5

事業報告の附属明細書

1 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況	6
2 事業の実施状況について補足すべき重要な事項【事業の概況】	6
(1) 市民活動推進事業	6
(2) 青少年健全育成事業	13
(3) 法人の運営	30

事業報告

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

1 当法人の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

(単位：千円)

事業別【経常収益】	予算現額	執行済額	達成率
市民活動推進事業	98,415	86,649	88.04%
青少年健全育成事業	2,788,436	2,788,249	99.99%

(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

(単位：千円)

区 分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度 (当事業年度)
経常収益	2,808,007	2,838,554	2,868,735	2,909,305
評価損益等調整前 当期経常増減額	50,717	17,123	△22,182	△29,418
当期経常増減額	50,717	17,123	△22,182	△29,418
正味財産期末残高	275,932	290,709	268,540	239,321

(3) 主要な事業内容

事業	主要な事業の内容
市民活動推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 市民活動に関する情報の収集・提供及び啓発事業 市民活動に関する調査・研究事業 市民活動に関する人材育成及び相談事業 市民活動の促進・支援事業 関係機関・関係団体等との連携 その他目的を達成するために必要な事業（理事会又は評議員会で決議する事業）
青少年健全育成事業	<ul style="list-style-type: none"> 青少年の健全育成に関する事業 青少年施設の管理運営の受託 関係機関・関係団体等との連携 その他目的を達成するために必要な事業（理事会又は評議員会で決議する事業）

(4) 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約金額	契約期間	契約の概要
平成26年4月1日	川崎市	合計2,703,324,671円	H26.4.1から H27.3.31まで	川崎市こども文化センター指定管理業務の受託に伴う年度協定書

(5) 職員に関する事項

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

職名等	氏名	就任年月日	担当事務	備考
事務局長	風間 達穂	H22.04.01	事務局の総括	重要な使用人
総務課長	加藤 明男	H22.04.01	課の総括	
市民活動推進課長	入口 茂	H24.04.01	〃	
青少年事業課長	大倉 万里子	H22.10.01	〃	(参事)
青少年事業課主幹	島 忍	H22.10.01	エリアマネージャーの総括	
その他の職員 (嘱託職員を含む)				315名

(6) 役員会等に関する事項

ア 理事会

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第 1 回	平成 26 年 5 月 26 日	議案 1 規則改正について 2 平成 25 年度事業報告及び収支決算について 3 平成 26 年度 5 月補正予算について 4 平成 26 年度第 2 回評議員会の開催について 報告 1 行政庁へ提出する事業報告書等について 2 平成 25 年度経営改善計画の進捗管理について 3 年度協定書の締結について 4 特定準備資金の支出結果について 5 職員採用選考について	可決 可決 可決 可決 了承 了承 了承 了承
第 2 回	平成 26 年 6 月 19 日	議案 1 理事長の選定について 2 副理事長及び常務理事について	可決 可決
第 3 回	平成 26 年 11 月 28 日	議案 1 平成 26 年度 11 月補正予算について 2 平成 26 年度第 3 回評議員会の開催について 報告 1 平成 26 年度上半期の事業等について 2 職員の処分について 3 職員採用選考及び昇任試験について 4 全市的イベントの実施予定等について	可決 可決 了承 了承 了承
第 4 回	平成 27 年 3 月 10 日	議案 1 規則の改正について 2 平成 27 年度事業計画について 3 平成 27 年度収支予算について 4 行政庁への事業計画書等の提出について 5 平成 27 年度第 1 回評議員会の開催について 報告 1 規則の改正について 2 職員採用及び昇任試験について 3 全市的イベントの実施結果について	可決 可決 可決 可決 可決 了承 了承 了承

イ 評議員会

会議名	開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
第 1 回	平成 26 年 4 月 17 日	議案 1 経営改善計画について 報告 1 規則の改正について 2 平成 26 年度事業計画について 3 平成 26 年度収支予算について 4 行政庁への事業計画書等の提出について 5 行政庁の立入検査の実施結果について 6 職員採用選考及び昇任試験について 7 全市的イベントの実施結果について	可決 了承 了承 了承 了承 了承 了承 了承
第 2 回	平成 26 年 6 月 19 日 (定時評議員会)	議案 1 平成 25 年度事業報告及び収支決算について 2 理事の任期満了に伴う改選について 3 監事の任期満了に伴う改選について 4 評議員の任期満了に伴う改選について 報告 1 規則の改正について 2 平成 26 年度 5 月補正予算について 3 行政庁へ提出する事業報告書等について 4 平成 25 年度経営改善計画の進捗管理について 5 年度協定書の締結について 6 特定費用準備資金の支出結果について 7 職員採用選考について	可決 可決 可決 可決 了承 了承 了承 了承 了承 了承 了承
第 3 回	平成 26 年 12 月 8 日	議案 1 規則の改正について 報告 1 平成 26 年度 11 月補正予算について 2 平成 26 年度上半期の事業等について 3 職員の処分について 4 職員採用選考及び昇任試験について 5 全市的イベントの実施予定等について	可決 了承 了承 了承 了承 了承

(7) 対処すべき課題

平成 22 年 9 月「騒音差止等請求事件」について

〔原告〕 省略

〔被告〕 川崎市、公益財団法人かわさき市民活動センター

〔裁判所〕 横浜地方裁判所川崎支部

当財団では、顧問弁護士を訴訟代理人として委任し、弁論準備期日、口頭弁論及び和解期日を経て、平成 25 年 7 月 2 日に原告との和解が成立しました。

しかし、原告から和解条件に示された内容等について、要望等が寄せられていることから、川崎市及び当該こども文化センター運営協議会等の関係機関と調整を図りながら対応しました。

2 役員等に関する事項

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

(1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
代表理事 (理事長)	小倉 敬子	H26.6.19 から H28.6 定時評議員 会まで	常 勤	有	LET'S 国際ボランティア交流会 代表
副理事長	大下 勝巳	"	非常勤	"	特定非営利活動法人 かわさき創造プロジェクト 代表
副理事長	福田 武雄	"	"	"	川崎市青少年育成連盟 理事
代表理事 (常務理事)	太田 直	"	常 勤	"	元市民・こども局長
理 事	飯田 嘉徳	"	非常勤	"	社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 事務局長
"	大下 由美子	"	"	"	川崎市 P T A 連絡協議会 副会長
"	金井 則夫	"	"	"	公益財団法人 川崎市生涯学習財団 理事長
"	鈴木 眞智子	"	"	"	特定非営利活動法人 とどろき水辺 理事
"	瀧村 治雄	"	"	"	川崎市全町内会連合会 副会長
"	深瀬 浩由	"	"	"	川崎市レクリエーション連盟 会長

(2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監 事	浅田 省三	H26.6.19 から H30.6 定時評議 員会まで	非常勤	有	元川崎市理事・収入役室長
"	志村 佳徳	"	"	"	税理士

(3) 評議員

役職名	氏名	任期	常勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
評議員	齊藤 準	H26.6.19 から H30.6 定時評議 員会まで	非常勤	有	社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 理事
"	三枝 博男	"	"	"	司法書士
"	菅原 陽子	"	"	"	特定非営利活動法人 市民文化パートナーシップかわさき 理事
"	竹井 斎	"	"	"	特定非営利活動法人 アクト川崎 理事長
"	土澤 稔	"	"	"	元川崎市立中学校校長
"	永津 英二郎	"	"	"	税理士
"	仁藤 公子	"	"	"	元川崎市立小学校校長
"	東田 乗治	"	"	"	元神奈川県青少年指導員連絡 協議会 会長
"	前田 成東	"	"	"	東海大学教授

(4) 役員等の報酬

区 分	人 数	報酬の総額	備 考
理 事	10名	6,170千円	(常勤及び非常勤)
監 事	2名	120千円	(非常勤)
評議員	9名	184千円	(非常勤)
合 計	21名	6,474千円	

注1：理事、監事及び評議員の報酬額は、平成22年7月1日開催の評議員会において了承された「役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則」において定められている。

2：評議員の報酬の限度額は、「定款」第15条において、毎年度総額30万円を超えないものとされている。

事業報告の附属明細書
(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

1 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況

区分	氏名	兼職先法人名	兼職内容
理事	金井 則夫	公益財団法人川崎市生涯学習財団	理事長

2 事業の実施状況について補足すべき重要な事項【事業の概況】

(1) 市民活動推進事業

昨年同様、全市・全域の市民活動団体の中間支援組織として、これまでの経験と知識を活かし、川崎市民のボランティア活動及び市民活動団体への支援・育成に取り組みました。

平成26年度の主な取組は、次のとおりです。

ア 会議室・フリースペース等管理運営事業

平成26年度の利用登録団体数は、新規37団体、計647団体で、会議室・印刷室・フリースペース・パソコン等の施設・設備の利用状況は、以下のとおりです。

施設・設備名	平成26年度		平成25年度	
	延べ	人数	延べ	人数
会議室 A	延べ 522 団体	5,531 人	延べ 523 団体	5,865 人
会議室 B	延べ 422 団体	3,955 人	延べ 354 団体	3,268 人
印刷室	延べ 489 団体	1,073 人	延べ 482 団体	967 人
フリースペース	延べ 3,534 団体	16,758 人	延べ 3,148 団体	14,775 人
パソコン(全2台)	延べ 374 団体	581 人	延べ 395 団体	645 人
施設・設備等利用計	延べ 5,341 団体	27,898 人	延べ 5,246 団体	25,520 人
ロッカー・大(全72台)	72 台		71 台	
ロッカー・小(全9台)	9 台		8 台	
レターケース(全57台)	36 台		32 台	
市民活動ブース 1	(特非)かわさきマンション管理組合ネットワーク		同左	
市民活動ブース 2	(特非)グローイン・グランマ		同左	
市民活動ブース 3	(特非)川崎市精神障害者連絡会		同左	
市民活動ブース 4	かわさきJプロジェクト+		同左	
市民活動ブース 5	①持続可能な地域交通を考える会 ②川崎の交通とまちづくりを考える会 ③川崎フューチャーネットワーク		同左	
後援名義申請数	14 団体		15 団体	

* (特非) = 特定非営利活動法人

イ 情報提供・啓発事業

(ア) 情報誌「ナンバーゼロ」の発行

ボランティアや市民活動に関する様々な情報を提供するため、毎月各10,000部(1・4面フルカラー、2・3面モノクロ)発行し、市内公共機関、関係団体及び賛助会員に配布しました。また、視覚障害の方にも情報を提供するため、各月号の録音版を作成し、市内希望者等に当該団体等を通じて35名の方に配布しました。なお、今年度から、録音媒体をカセットテープからデジタイズ(CD)に変更いたしました。

(イ) ボランティア・市民活動募集冊子の発行

ボランティアや市民活動に参加してみたいという学生や市民の方々に役立ててもら

うため、市内活動団体のボランティア募集情報を満載した小冊子「ボラナビ」を、川崎市社会福祉協議会と共同で 5,000 部発行し、市内関係機関・団体、小・中・高等学校等に配布しました。

(ウ) 神奈川新聞紙面へのコラム連載

人材育成の一環として、情報発信力等の向上に役立ててもらうため、市民記者養成講座を修了した方に、市民記者としてボランティアや市民活動に関する様々な情報の取材や編集作業を実践していただき、「市民発 地域をつくる人・活動」と題した記事を、神奈川新聞社の協力により毎週土曜日に掲載しています。平成 26 年度は、市民記者 15 人の方により、49 回掲載いたしました。

(エ) ホームページ・ポータルサイトの運営

- ① ホームページに月平均 4,100 件のアクセスがありました。また、今年度から、イベント等のスケジュールカレンダー、会議室の予約状況カレンダーを新設しました。
- ② 応援ナビかわさきにつきましては、川崎市内における市民活動のポータルサイトとして役立つよう、イベント・講座、ボランティア募集、団体詳細、民間助成金等、最新情報を迅速に掲載するとともに、コンテンツの充実に努めました。今年度は、月平均約 3,000 件のアクセスがありました。
- ③ 新着情報などをまとめたメールマガジンをメルマガ会員（162 会員）あてに月 1 回発行しました。

ウ 調査・研究事業

平成 25 年度に実施した市民活動実態調査・助成金交付団体追跡調査をまとめ、既存の調査資料とともに、当財団のホームページにアップし、関係する団体や機関等の利用に供しました。

エ 交流促進事業

(ア) ごえんカフェ（市民活動交流会）の開催

昨年度に引き続き、分野を超えた市民活動団体の交流・連携の促進を図るためのイベントとして、ごえんカフェ（市民活動交流会）を 10 月 25 日（土）に開催しました。当日は 49 団体、93 名の参加があり、名刺交換や団体 PR などが行われ、各団体間の情報交換や交流の場として活用されました。

(イ) ごえん楽市（かわさきボランティア・市民活動フェア）の開催

市内のボランティア・市民活動を広く市民に周知し、ボランティア・市民活動の活性化の促進等を目的に、平成 27 年 1 月 31 日（土）、中原市民館・かわさき市民活動センターを会場に、「ごえん楽市（かわさきボランティア・市民活動フェア）」を開催しました。昨年に引き続き中原ミュージカルのオープニング演奏をかわきりに、川崎市立川崎高校福祉・ボランティア部の手話コーラス、パネル展示（43 団体）、団体企画（25 団体）、フリーマーケット（5 団体）、川崎市 NPO 応援キャラクターコーナー、野菜販売、東日本大震災復興支援企画（中原区町内会連絡協議会活動紹介・古本で復興支援）、地域作業所作品展示販売など、約 1,800 人の幅広い年齢層の方々の参加がありました。

オ 研修・相談事業

(ア) ボランティア・市民活動入門講座

小・中・高校生を対象にボランティア活動の実習セミナーとして「チャレボラ 2014」を、市・区社会福祉協議会・市公園緑地協会・川崎授産学園と共催で実施しました。52のプログラムを準備したところ、317名（小学生137名・中学生112名・高校生67名・大学生1名）の参加者があり、「オリエンテーション」「各ボランティアプログラム体験」「活動のまとめと振返り」の全課程修了者には修了証が授与されました。当センターは、5施設、2団体（中原図書館、市民ミュージアム、高津市民館橋分館、川崎市地球温暖化防止活動推進センター、地域子育て支援センター、落書き戦隊ケスンジャー、川崎中原の空襲・戦災を記録する会）の協力を得て7つのプログラムを担当・実施したところ、小・中・高校生・大学生 計59名の参加がありました。

(イ) 市民活動基礎講座（NPO 発見・創造セミナー）

市内の様々な地域課題を市民自らが解決する力をつけるための講座として、10月13日から11月30日まで7回にわたり開催し、延べ37名の参加がありました。

(ウ) ボランティア・市民活動団体パワーアップセミナーの開催

このセミナーは、組織マネジメント等、団体運営上のノウハウの習得を目的とした研修で、一部川崎市社会福祉協議会と共催で実施しています。

① 当センター単独開催セミナー

開催日	内 容		参加数	開催場所
5月17日(土)	テーマ	イベントを企画・運営する	16名	当センター・会議室
	講師	呉 哲煥（NPO法人CRファクトリー代表）		
6月7日(土)	テーマ	人が集まる！チラシの作り方	22名	
	講師	野竿達彦（㈱Yプロデュース代表取締役）		
6月28日(土)	テーマ	「団体の組織強化」	11名	
	講師	呉 哲煥（NPO法人CRファクトリー代表）		
7月26日(土)	テーマ	団体活動PR映像制作	13名	
	講師	杉田 このみ（映像作家）		
9月6日(土)	テーマ	NPO法人のための会計セミナー	22名	
	講師	原 淳子（原淳子税理士事務所） 嶋貴 綾（税理士法人プロフィットパートナーズ代表税理士・AFP）		
10月4日(土)	テーマ	すぐに役立つ！労務管理・労働社会保険の基礎知識	14名	
	講師	佐川陽子（佐川社会保険労務士事務所 所長）		

② 川崎市社会福祉協議会との共催セミナー

開催日	内 容		参加数	開催場所
11月8日(土)	テーマ	団体の会計（基礎編）	13名	エポック中原
	講師	原 淳子（原淳子税理士事務所）		
11月29日(土)	テーマ	知って得する！市民活動・ボランティア活動のための助成金セミナー	8名	
	講師	手塚 明美（NPO法人藤沢市市民活動推進連絡会 事務局長）		
1月17日(土)	テーマ	メディアを活用したコミュニケーションデザイン	23名	
	講師	藤原正仁（専修大学ネットワーク情報学部）		
2月14日(土)	テーマ	仲間づくりのコツ！	11名	
	講師	竹迫和代（参画はぐくみ工房）		

(エ) 市民記者養成講座

現役の記者の方や、広告・広報の専門知識を持つ方を講師として、記事の取材や編集方法等についての基礎講座を、平成 27 年 1 月 14 日から 2 月 18 日までの間 5 回開催しました。10 名の修了者全員が平成 27 年度から新たに市民記者として加わります。

(オ) 市民活動相談業務

市民活動相談については、職員が対応するほか、市民活動相談員 4 名をセンター窓口配置しています。延べ 84 件の相談があり、内訳は窓口相談 59 件、電話相談 20 件、その他 5 件で、うち 59 件を当財団の職員が対応し、残り 25 件を相談員が対応しました。

(カ) NPO 法人の手続き等に関する相談の実施

川崎市との共催により、市職員による NPO 法人の設立などに関する相談を毎月第 3 水曜にセンター窓口で実施し、4 件の相談がありました。また、東京地方税理士会と連携実施している NPO 法人のための会計実務個別相談には、6 件の申込みがありました。

(キ) 職員及び役員の派遣

当センターでは、各団体等の要請に基づき、当財団の職員及び役員を講師として派遣する事業を実施しています。平成 26 年度の派遣状況は下記のとおりです。

① 職員派遣状況

開催日	主催者	テーマ	対象者	開催場所
1月22日(木)	多摩区生涯学習支援課	さあ、市民活動をはじめよう - 市民活動事始め -	一般市民	多摩市民館
1月24日(土)				

② 役員派遣状況

開催日	主催者	テーマ	対象者	開催場所
6月5日(木)	麻生市民館	識字ボランティア入門研修「ボランティアとしての心構え」	一般市民	麻生市民館
8月7日(木)	中原区保健福祉センター	運動普及推進員・食生活改善推進員合同フォロー講座「ボランティア活動を続けるためのコツと心構え」	一般市民	中原区役所
9月11日(木)	宮前区保健福祉センター	運動普及推進員・食生活推進員養成教室「健康づくりと地区活動に向けて」	一般市民	宮前区役所
10月28日(火)	宮前区役所	すくすく子育てボランティア講座「ボランティア活動とは？」	一般市民	宮前区役所
11月10日(月)	宮前区保健福祉センター	運動普及推進員合同フォロー教室「健康づくりと地区活動・ボランティアを推進するためのコツ」	一般市民	宮前区役所
11月13日(木)	川崎市育成会 手をむすぶ親の会	たかつ防災シンポジウム コーディネーター ～震災！その時知的障害をもつ人は～	一般市民	高津区役所
12月11日(木)	高津区保健福祉センター	食生活改善推進員・運動普及推進員フォロー講座	一般市民	高津区役所
1月24日(土)	NPO 法人あさお 市民活動サポートセンター	目指そうアクティブシニア達のセミナー「シニア世代の地域活動」	一般市民	麻生市民交流館 やまゆり
1月29日(木)	中原区生涯学習支援課	保育ボランティア入門講座 「ボランティア活動について」	一般市民	中原市民館
1月30日(金)	高津区生涯学習支援課	シニア世代のパワーアップセミナー 「いろいろある市民活動・仲間づくり、生きがい探しのヒント」	一般市民	高津市民館

開催日	主催者	テーマ	対象者	開催場所
3月06日(金) 3月13日(金)	幸区生涯学習 支援課	シニアの社会参加支援事業 「リタイア後の人生をリフレッシュする」	一般市民	日吉分館
3月14日(金)	中原区生涯学 習支援課	生涯学習交流会 中原区から始めよう！地域活動はじめての一步	一般市民	中原市民館

カ 連絡調整事業

(ア) 川崎市社会福祉協議会との連絡調整

ボランティア・市民活動についての調整会議を4回、人材育成講座の共同開催に関する会議を3回開催しました。

(イ) 川崎防災ボランティアネットワークの運営

ネットワークの事務局として、今年度の定例会が円滑に開催できるよう、所属団体間の調整等所要の準備を行いました。また、市からの要請に基づき、ネットワークから4名の方が、平成26年度川崎市総合防災訓練に参加しました。

(ウ) 大学連携事業

専修大学ネットワーク情報学部との連携による市民活動団体への広報支援事業を毎年度実施しています。平成26年度は12団体の参加協力を得て、映像作品や団体パンフレット等の作成支援を行い、7団体の映像作品が第6回かながわNPO映像祭において入賞し、うち2団体が優秀賞を受賞しました。

(エ) 市・区の市民活動支援担当者との定期的情報交換会等の開催

市民・子ども局との定例会を8回、区役所の市民活動支援担当者と市民活動支援に関する情報交換会等をそれぞれ1回開催しました。

キ かわさき市民公益活動助成金制度運営事業

平成26年度の「かわさき市民公益活動助成金運営事業」に係る募集、審査等の実施状況は、下記のとおりです。

募集期間	平成25年11月21日～平成26年1月14日
審査方法	書類審査及び公開プレゼンテーション
審査委員会	第一次審査・書類審査(3月3日、3月7日) 第二次審査・公開プレゼンテーション(4月19日、20日)
審査結果	①スタートアップ助成 ・申請 15団体 交付 10団体 ②ステップアップ助成(30・100・200) ・申請 56団体 交付 35団体
交付総額	13,963,139円

(ア) 制度検討プロジェクトの開催状況

上記の市民公益活動助成金の申請団体のうち2団体から、審査委員会の運営方法等についてご質問・ご意見がありました。そのうち、審査委員会の構成、審査基準等について勘案すべき点につきまして、このプロジェクトのテーマとして議論いただきました。その検討結果を踏まえ、来年度実施に向け、要綱等の見直すこととしました。今年度の検討プロジェクトの開催状況は、次のとおりです。

開催日	検討テーマ	
第1回	6月12日(木)	審査委員会の構成等について
第2回	7月31日(木)	複数年申請の取扱いについて
第3回	8月25日(月)	複数年申請の取扱いについて
第4回	9月22日(月)	要綱、要領の見直しについて
第5回	12月19日(金)	26年度検討結果のまとめ

ク 川崎災害ボランティア活動助成事業

国内における災害発生後の被災地で行う復興支援に関わるボランティア活動助成については、国内において様々な災害が続いていることから、引き続き当助成事業を実施しました。

平成 26 年度の助成実績は、次のとおりです。

期 間	申請件数	交付金額
平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	4 件 (1 団体)	99,548 円

ケ 川崎市市民活動補償制度運営事業

市民が安心してボランティア活動に取り組める環境づくりの一環として、川崎市市民活動補償制度運営事業（ボランティア保険事業）を川崎市から受託・運営しています。

平成 26 年度の申請件数及び支払金額は、以下のとおりです。

期 間	申請件数	支払済件数	支払済額
平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	35 件	38 件	2,151,840 円

なお、昨年度から、町内会等から要請がある場合は、当センター職員を派遣し、ボランティア保険についての説明等を行い、制度の周知・広報に努めました。なお、支払済件数、支払済額については、前年度申請分の支払も含まれています。

平成 26 年度の職員派遣状況は、下記のとおりです。

開催日	主催者	対象者	開催場所
9 月 11 日 (木)	麻生区町会連合会	町内会役員	麻生区役所
9 月 20 日 (木)	中原区町内会連絡協議会	町内会役員	中原区役所
12 月 11 日 (木)	川崎市公園緑地協会	一般市民	中原区役所

コ 賛助会員の確保

賛助会員につきましては、総額 400,000 円のご支援・ご賛同をいただきましたが、賛助会員が減少傾向にあることから、加入促進について検討します。

種 別	前年度末	当期年度末	増減	会費 (一口)	賛助総額
個人会員	1 3 0 名	9 3 名	△ 3 7	1,000 円	185,000 円 (185 口)
団体会員	3 9 団体	3 6 団体	△ 3 団体	5,000 円	215,000 円 (43 口)

サ 募金・寄付等の取組

(ア) ボランティア・市民活動募金

市民活動推進事業への寄付等を募るために、募金箱を当センター窓口やご協力を得た市内事業者の各店舗へ設置しております。募金箱その他を合わせて、平成 26 年度は 87,098 円のご寄付がありました。また、一般社団法人 生命保険協会神奈川県協会（幹事会社日本生命保険相互会社川崎支社）から、200,000 円のご寄付をいただきました。

(イ) 東日本大震災義援金募金

引き続き、被災地域への復旧復興、被災者への支援を行うため、当センターに募金箱を設置し、義援金を募りました。平成 27 年 3 月末日現在、7,826 円のご寄付をいただきました。この、義援金につきましては、（公財）神奈川新聞厚生文化事業団をととして、被災地域の支援に供する予定です。

シ 中原区子育て支援者養成事業（受託事業）

中原区が地域課題対応事業の一つとして実施している「子育て支援者養成事業」を25年度に引き続き26年度も受託しました。本事業を地域子育て力向上事業の一つと位置づけ、子育てをとおして地域のネットワークやコミュニティづくりのリーダー役を担える人材の育成を目標に取り組んでいます。実施状況は、次のとおりです。

(ア) 一般向け+ステップアップ講座

開催日	内 容		参加数	開催場所
9月18日(木)	テーマ	・オリエンテーション・自己紹介 ・中原区の子育て施策について	33名	当センター・会議室ほか
	講師	・中原区役所こども支援室・講座担当者		
9月25日(木)	テーマ	・子どもを取り巻く環境の変化と、現代社会が抱える課題について		
	講師	・松田恵示(東京学芸大教授)		
10月9日(木)	テーマ	・子育て支援活動団体紹介と交流(3団体)		
	講師	・子育て支援活動団体		
10月15日(水) ~17日(金)	テーマ	・前回紹介のあった支援場所見学		
10月23日(木)	講師	・子育て支援活動団体		
10月30日(木)	テーマ	・子育て中の母親への理解と“こども”について学び、支援のあり方を考える		
	講師	・柴田愛子(リンゴの木)		
11月6日(木)	テーマ	・振り返りとまとめ ・今後について		
	講師	・当センター講座担当者		

(イ) フォローアップ講座

開催日	内 容		参加数	開催場所
11月13日(木)	テーマ	・子育てを取り巻く現代の状況を知り、子育て支援者としての具体的対応を学ぶ	23名	当センター・会議室ほか
	講師	・久富陽子(東京家政大学教授)		
11月20日(木)	テーマ	・昨年度受講生との交流活動の輪を広げる		
	講師	・昨年度受講生及び当センター講座担当者		
11月27日(木)	テーマ	・まとめと今後について		
	講師	・当センター講座担当者		

(2) 青少年健全育成事業

平成 26 年度も、こども文化センター53 館・わくわくプラザ 101 施設の指定管理者として、これまでの経験と知識を活かし、適切な管理・運営に努めました。具体的な取組内容は、以下のとおりです。

ア こども文化センター運営事業

(ア) 快適な居場所づくり

こども文化センター及びわくわくプラザでは、子どもたちの安全確保を旨として、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりに努めました。併せて、子どもたちが楽しく過ごせるよう、遊びや行事等にも工夫を凝らして取り組みました。平成 26 年度の利用状況は下記のとおりです。

① こども文化センター（53 館）利用状況推移表

利用者別	24 年度	25 年度	26 年度	
乳幼児	246,871 人	253,972 人	287,300 人	(+33,328 人)
小学生	659,825 人	680,295 人	721,558 人	(+41,263 人)
中学生	187,044 人	193,602 人	208,198 人	(+14,596 人)
高校生	41,532 人	38,836 人	41,433 人	(+2,597 人)
成人	366,924 人	375,004 人	404,388 人	(+29,384 人)
計	1,502,196 人	1,541,709 人	1,662,877 人	(+121,168 人)
団体利用数	10,101	9,755	10,552	(+797)

* 26 年度の（ ）内は 25 年度と比較増減数

② わくわくプラザ（101 校）利用状況推移表

年 度	在校児童数	登録児童数	登録率	年間利用延べ人数	1 日平均利用人数
24 年度	62,857 人	28,092 人(825)	45%	1,475,559 (72,706)人	5,038(249)人
25 年度	62,975 人	28,952 人(835)	46%	1,548,158 (70,783)人	5,320(243)人
26 年度	63,625 人	29,655 人(866)	47%	1,665,976 (72,805)人	5,685(248)人

() 内は特別な支援を必要とする児童の内数

(イ) 乳幼児の子育て支援

平成 26 年度は、延べ 6,428 団体（1 館平均 121 団体）の乳幼児サークルの利用がありました。各館では、場の提供による支援に加え、館独自の乳幼児向け行事（親子工作・読み聞かせ・ベビータッチケア・ベビー服の交換会等）、関係諸団体の協力を得た行事（乳幼児と高校生のふれあい交流会・子育てサロン・親子体操等）、栄養相談や乳幼児身体測定などを実施・開催しました。

また、地域子育て支援会議等に参加し、情報交換を行うなど、地域の子育てネットワーク作りにも積極的に取り組みました。

(ウ) 中学生及び高校生の利用促進

中学生・高校生の利用に際しては、主体的な活動の尊重・支援を基本とし、異年齢交流行事（卓球大会・たこ焼きパーティー）ほか、様々な工夫を凝らした行事（ふれあいコンサート）に取り組み、利用の促進を図りました。

また、音楽室が設置されている南河原、宮崎及び白山こども文化センターについては、中学生・高校生のほか、地域音楽活動の拠点としての利用促進を図りました。

平成 26 年度の音楽室の利用状況は、下記のとおりです。

施設名	年 度	利 用 団体数	利 用 者 人 数				
			小学生	中学生	高校生	一 般	合 計
南河原	24 年度	826	17 人	47 人	1,031 人	502 人	1,597 人
	25 年度	499	6 人	181 人	370 人	523 人	1,080 人
	26 年度	647	18 人	226 人	490 人	477 人	1,211 人
宮 崎	24 年度	662	2 人	315 人	361 人	628 人	1,306 人
	25 年度	644	0 人	62 人	217 人	666 人	945 人
	26 年度	876	2 人	84 人	251 人	781 人	1,118 人
白 山	24 年度	910	25 人	44 人	1,425 人	703 人	2,197 人
	25 年度	945	18 人	55 人	1,475 人	709 人	2,257 人
	26 年度	1,109	6 人	23 人	1,023 人	1,212 人	2,264 人
合 計	24 年度	2,398	44 人	406 人	2,817 人	1,833 人	5,100 人
	25 年度	2,088	24 人	298 人	2,062 人	1,898 人	4,282 人
	26 年度	2,632	26 人	333 人	1,764 人	2,470 人	4,593 人

(エ) 地域活動拠点としての利用推進

こども文化センターは地域の児童の健全育成に寄与するという目的施設ですが、児童の利用が少ない時間帯を中心として、地域のボランティアや市民活動団体等の方々の利用促進にも取り組みました。

平成 26 年度は、延べ 22,495 団体（1 館平均 424 団体）の利用があり、会議や打合せのほか、卓球、コーラス、ダンスといった趣味の活動の場としても利用されています。

例年、そうした利用者の一部の方には、子どもたちの囲碁教室や卓球教室などの講師になっていただいたり、コンサートを開催していただいたり、ボランティアとして様々なご協力をいただいています。

(オ) 運営協議会

運営協議会は、こども文化センターの運営を、地域と連携して円滑に行うために設置された機関です。運営協議会では、こども文化センターの様々な課題について協議を行い施設利用のルール作りや地域団体との橋渡しを担っていただいているほか、行事等も積極的に参画していただくなど、その役割は多岐にわたっています。

平成 26 年度は、全市で 291 回(各館平均 5 回)の運営協議会が開催され、延べ 2,986 名の運営委員の方にご参加いただき、こども文化センターを巡る様々な課題について協議をしていただきました。

平成 26 年度も、恒例行事の「こどもまつり」「さんま祭り」「クリーン作戦」「餅つき大会」「流しそうめん」等の開催に当たりましては、運営協議会の委員の方々に、様々なご協力・ご支援をいただきました。

また、区ごとに各館の運営協議会が参加する「区運営協議会」が設置されておりますが、平成 26 年度は、全区で 10 回開催され、延べ 84 名の委員の方にご参加いただき、各区で取り組んでいる合同行事の実施計画や各館共通の課題等について協議していただきました。今後とも、各館の運営協議会及び区運営協議会で出された意見や結論を集約し、こども文化センターの運営に活かしてまいります。

(カ) 不登校児の居場所づくりの取組み

不登校児の利用がある場合は、学校等関係機関と連携し状況を把握して対応しています。また、不登校児が来館した際に備え、より適切な対応ができるよう、専門研修の実施など職員のスキルアップに取り組みました。

(キ) 児童の安全・安心確保

児童の安全・安心の確保は、青少年施設運営の基本業務で、スタッフによる見守りに死角はないか、遊具等の点検に見落としがないかを絶えず館長やリーダーが確認しています。また、区ごとに事故ゼロ運動を推進するなど、本部・各館一丸となって事故防止の向上に取り組みました。

不審者や自然災害等の外部からの脅威については、各館の職員が適切な対応がとれるよう、様々な情報や指示を、適宜、本部から各こども文化センターに発信し、事件・事故の予防、安全・安心の確保に努めました。

(ク) 食物アレルギーへの対応について

調布市の学校給食で出されたチーズを食した児童が、アナフィラキシーショックを起こし死亡するという事故や、川崎市給食で出されたキウイフルーツによる 61 人のアレルギーの発症事件等、食物アレルギーによる重篤な事故が増えている状況を踏まえ、児童の誤食事故防止の観点から、行事等で食物を提供する場合のルール作りに取り組みました。

① 財団主催事業の場合

わくわくプラザで提供する「おやつ」については、既に保護者による事前申込制とし、食物アレルギーをもつ児童には、当該アレルゲンを含む「おやつ」を誤食させないようにしています。こども文化センターにおいても同様に、財団が単独で主催する事業で食物を提供する場合は、すべて、保護者による事前申込制として実施することとしました。

なお、このことにつきましては、保護者への「たより」や館内掲示等により事前に周知し保護者及び利用児童に十分理解が得られるよう努めました。

② 運営協議会など他団体との共催事業の場合

子どもたちに食物を提供する事業を実施するに当たっては、できる限り事前申込制を導入するよう各共催団体に申し入れておりますが、地域特性や不特定多数が参加する等の理由により、事前申込制の実施が困難な場合については、法令に基づいた食品のアレルギー表示はもちろんのこと、誤食によるアレルギー事故が起らないよう、利用者への広報や研修会の開催など様々な防止対策に取り組みました。

(ケ) 巡回相談員の配置

平成 26 年度のわくわくプラザにおける特別な支援を必要とする児童登録数は 866 名でした。特別な支援を必要とする児童に対し、より適切な対応が行えるよう、専門知識を持つ巡回相談員を 7 名配置しました。巡回相談員は、元特別支援学校や小学校の校長経験者で、当該業務に従事するスタッフのアドバイザーとして、またスタッフ研修の講師として活躍しました。

(コ) わくわくプラザ学習タイムの実施

子どもたちの学習習慣の形成を図るため、引き続きボランティアや臨時職員からなる専任アドバイザーを配置し、落ち着いて自学・自習ができる時間と場所を確保し、学習タイムを実施しました。

(サ) 各種研修の計画的実施

青少年事業は、人的サービスの提供が基本であることから、職員の資質や技能の向上を図るための研修については、業務遂行上の重点課題として認識しております。

毎年度、当財団の人材育成計画に基づいて本部が年次計画を策定しており、各館では、職員ごとの研修受講名簿を備え、全職員が、経験や職位に応じて必要となる研修を順次受講できるように工夫して、効率・効果的な執行を心掛けています。平成26年度の主な取組状況は次のとおりですが、その他、各グループ、館において多数の研修を実施しました。

① 財団主催研修（全市）

研修名	講師等	対象	参加数	開催場所
新任館長職員研修	内部講師（本部係担当職員）	館長 職員	20人	中原市民館会議室
新任館長研修	社会保険労務士 武田仁氏	館長	6人	財団本部会議室
普通救命講習（外部）	高津消防署	館長 職員	18人	高津消防署
館長研修	内部講師（本部係長等）	館長	53人	各区代表こども文化センター
主任研修	（他都市児童館等見学等報告会）	主任	延24人	財団本部会議室
職員研修	①本部係長 ②エリアマネージャー ③主査	全職員	延228人	各区こども文化センター代表館
本部体験研修	内部講師（本部職員）	主任 館長	9人	財団本部
巡回相談員研修	他施設見学研修	巡回 相談員	6人	川崎市立田島支援学校桜校
新ホームページ導入研修	㈱スマートバリュー 担当者	全職員	延313人	中原市民館
新任職員フォローアップ研修	エリアマネージャー、主査、本部係担当者	館長 職員	25人	本部会議室
アレルギーに関する研修会	昭和大学医学部小児科学講座 講師 今井 孝成氏	館長 職員	136人	川崎市生涯学習プラザ

② 財団主催研修（区別）

区	研修名	講師等	対象	参加数	開催場所
川 崎 区	レクリエーション・キャンプ研修（川崎区・幸区合同）	東高津こども文化センター 職員 眞砂 亜紀 有馬こども文化センター 職員 長谷川 寛隆	館長 職員	1人 23人	南河原こども文化センター
	不登校児について研修	川崎区役所田島支所 教育相談員 齋藤 正氏 他4名	館長 職員	5人 23人	田島こども文化センター 川崎市立臨港中学校
	主任講師体験研修	幸こども文化センター 主任 和田 みゆき	館長 職員	2人 23人	渡田こども文化センター
	保護者対応研修	大師こども文化センター 館長 脇田 博子 小田こども文化センター 館長 荻野 千栄子 浅田こども文化センター 館長 小林 謙二	職員 臨職	29人 38人	浅田こども文化センター

区	研修名	講師等	対象	参加数	開催場所
幸区	レクリエーション・キャンプ研修（川崎区・幸区合同）	東高津こども文化センター 職員 眞砂 亜紀 有馬こども文化センター 職員 長谷川 寛隆	館長 職員	1人 20人	南河原こども文化センター
	普通救命講習・AED研修	幸消防署救急係長 大沼 孝至 氏	館長 職員	1人 5人 31人	南河原こども文化センター
	普通救命講習・AED研修	幸消防署救急係長 大沼 孝至 氏	職員 職員	5人 32人	小倉こども文化センター
	アサーション研修	アサーション川崎くじらの会 増井 幸子 氏 石坂 俊子 氏	館長 職員	4人 18人 38人	小倉こども文化センター
	不登校児対応研修	川崎市総合教育センター指導主事 中川 薫 氏	館長 職員	4人 16人 42人	南河原こども文化センター
	普通救命講習・AED研修	幸消防署救急係長 大沼 孝至 氏	館長 職員	2人 13人 87人	下平間こども文化センター
	チーフスキルアップ研修	※ディスカッション形式のため	館長 職員	2人 8人 30人	南加瀬こども文化センター
中原区	レクリエーション・キャンプ研修	旭町こども文化センター 職員 栗原 奈苗 千代ヶ丘こども文化センター 職員 梶 菜里衣	館長 職員	3人 26人 11人	玉川こども文化センター
	不登校児の対応について	川崎市総合教育センター指導主事 中川 薫 氏	館長 職員	6人 20人 11人	玉川こども文化センター
	安全管理・衛生管理研修	西宮内保育園 松木 千草 氏	館長 職員	5人 27人 85人	中原区役所
	館長研修	ディスカッション形式	館長	10人	小杉こども文化センター
	子どものためのアサーション研修	社会福祉士 石坂 俊子 氏 産業カウンセラー 増井 幸子 氏	館長 職員	3人 26人 48人	小杉こども文化センター
高津区	レクリエーション・キャンプ研修（高津区・宮前区合同）	麻生こども文化センター 職員 前平 八千代 田島こども文化センター 職員 池田 悦子	館長 職員	5人 20人 11人	宮前平こども文化センター
	事務研修	青少年事業課職員係主任 岩崎 由布子	館長 職員	4人 23人	高津こども文化センター
	食品衛生管理と感染症予防について	高津区保健福祉センター衛生課 平山 亜利紗 氏 荷見 奈緒美 氏	館長 職員	3人 34人	宮崎こども文化センター
	不登校児対応研修	梶ヶ谷こども文化センター 館長 山口 隆	館長 職員	5人 20人 17人	高津こども文化センター
	接遇研修	末長こども文化センター 館長 久保 香織 上作延こども文化センター 館長 佐藤 幸子	館長 職員	5人 20人 31人	梶ヶ谷こども文化センター

区	研修名	講師等	対象	参加数	開催場所
宮前区	レクリエーション・キャンプ研修（高津区・宮前区合同）	田島こども文化センター 職員 池田 悦子 麻生こども文化センター 職員 前原 八千代	館長 職員 臨	7人 36人 6人	宮前平こども文化センター
	応急手当	中有馬保育園看護師 藤沼 民子 氏	館長 職員 臨	4人 17人 55人	宮崎こども文化センター
	不登校児童への対応	宮前区こども支援室室長 青山 正彦 氏	館長 職員 臨	4人 15人 41人	野川こども文化センター
多摩区	不登校児対応研修	白山こども文化センター 館長 野上 美智子	館長 職員 臨	6人 17人 57人	多摩区役所 生田出張所 大会議室
	レクリエーション・キャンプ研修	王禅寺こども文化センター 職員 中野 杏里 枳形こども文化センター 職員 本間 亜紀子 青少年事業課施設係 主任 山田 拓	館長 職員 臨	2人 13人 8人	枳形こども文化センター集会室
	地域コーディネーター研修	枳形こども文化センター 館長 鈴木 有紀子 南菅こども文化センター 館長 高橋 慶次	館長 職員	1人 14人	枳形こども文化センター集会室
麻生区	不登校児についてと中高生の対応について	白山こども文化センター 館長 野上 美智子 虹ヶ丘こども文化センター 館長 堀 正芳	館長 職員 臨	3人 14人 20人	白山こども文化センター
	レクリエーション・キャンプ研修	西加瀬こども文化センター 職員 藤岡 啓太郎	館長 職員 臨	1人 18人 14人	百合丘こども文化センター
	指定管理と五感遊び	王禅寺こども文化センター 館長 役川 誠 柿生こども文化センター 館長 白鳥 秀樹 東百合丘こども文化センター 館長 倉林 樹里	館長 職員 臨	1人 15人 43人	東百合丘こども文化センター
	効率よくミスをなくそう！事務研修パート2	百合丘こども文化センター 館長 塚本 千春 千代ヶ丘こども文化センター 館長 谷本 真由美 麻生こども文化センター 館長 森山 博美	館長 職員	1人 19人	麻生こども文化センター

③ 川崎市主催研修

研修名	講師	対象	参加数	開催場所
組織の管理者としての管理能力・コーチングについて（全2回）	(株)社員教育研究室 代表取締役：坂巻 美和子	館長 主任 職員	101人	生涯学習プラザ
地域とのマネジメント能力・コミュニケーション能力について（全2回）	(財)生涯学習開発財団 認定コーチ：飛田 明子	館長 主任 職員	135人	生涯学習プラザ
大人の心理について	川崎幸クリニック 駒沢大学文学部心理学部講師 臨床心理士：稲富 正治	館長 主任 職員 臨	90人	生涯学習プラザ

研修名	講師	対象	参加数	開催場所
障がい児への対応について	川崎市特別支援教育センター 室長：増田 亨	館長 主任 職員 臨職	109人	生涯学習プラザ
フラッグフットボール教室	川崎市アメリカンフットボール協会	職員	6人	とどろきメインアリーナ
遊びや活動の支援(全3回)	NPO法人日本子どもチャレンジランニング連盟 上級指導員：水澤 豊子	館長 主任 職員	107人	黒川青少年野外活動センター

④ 資格取得研修

研修名	講師	対象	参加数	取得者数	開催場所
レクリエーション・インストラクター資格取得講座「かながわレクスクール」	神奈川県レクリエーション協会	職員	3人	2人	県立スポーツ会館
キャンプインストラクター資格認定講習会	神奈川県キャンプ協会	職員	2人	2人	神奈川県立愛川ふれあい村
児童厚生員等基礎研修会	一般財団法人児童健全育成推進財団	職員	8人	7人	ホテルヘリテージリゾート(埼玉県熊谷市)
中堅児童厚生員等研修会	一般財団法人児童健全育成推進財団	主査 主任	7人	7人	国立オリンピック記念青少年総合センター
児童厚生一級特別セミナー	一般財団法人児童健全育成推進財団	館長	8人	7人	国立オリンピック記念青少年総合センター
評価調査者資格研修(全6日間)	かながわ福祉サービス第三者評価推進機構	館長	4人	4人	神奈川県社会福祉会館
評価調査者資格研修(全6日間)	東京都福祉サービス第三者評価推進機構	本部職員	1人	1人	東京都福祉保健財団
雇用環境整備士資格講習会	社団法人日本雇用環境整備機構	本部職員	3人	3人	文京シビックホール
幼児安全法支援員講習会	日本赤十字社 神奈川県支部指導員	ふあみいゆ担当職員	2人	2人	川崎市総合福祉センター
甲種防火管理者講習会	川崎市消防防災指導公社	館長 主査	2人	2人	創造のもりK2ハウス

(シ) 子ども運営会議等の活動促進

① こども文化センター

こども文化センターには、子どもたちの自主性を尊重し、行事等で子どもたちの意見をできる限り反映させるための機関として、利用児童で組織する「子ども運営会議」が設置されています。平成26年度は、延べ790回(各館平均14回)開催され、延べ5,976名(各館平均112名)の参加があり、「カードゲーム大会」や「レゴブロック作品展」・「ドッジボール大会」・「お楽しみ会」などの様々な行事が子どもたちの企画・運営により実施されました。

② わくわくプラザ

わくわくプラザにも、同様の趣旨で「子ども運営会議」が設置されています。平成 26 年度は、延べ 1,422 回(各わくわくプラザ平均 14 回)開催され、合計 50,334 名(各わくわくプラザ平均 498 名)の参加があり、「紙飛行機づくり」「ドッジボール大会」などの様々な行事が子どもたちの企画・運営により実施しました。

(ス) 地域関係機関・関係団体との連携の強化

こども文化センター・わくわくプラザの円滑な事業運営を図るため、地域関係機関(学校・各区こども支援室・子育て支援センター)や地域施設利用団体(子育てサークルなど)が実施する行事等に積極的に参加し、連携強化に努めました。

また、特別な支援を必要とする児童への対応強化を図るため、発達相談支援センター・児童相談所・地域療育センターなどの関係諸機関との交流推進、連携強化に努めました。平成 26 年度に参加した主な行事等は次のとおりです。

区 別	開 催 日	内 容 (総数)	開 催 場 所
川 崎	9 月 6 日 (土)	川崎区子育てフェスタ	教育文化会館
幸	2 月 28 日 (土)	子育てフェアさいわい	幸 市 民 館
中 原	11 月 8 日 (土)	なかはら子ども未来フェスタ	中 原 区 役 所
高 津	8 月 31 日 (日) 11 月 15 日 (土)	こどもフェア (ドロー艇競技会) 高津区こども・子育てフェスタ	新二子橋下周辺 高 津 市 民 館
宮 前	10 月 25 日 (土)	みやまえ子育てフェスタ	宮 前 市 民 館
多 摩	9 月 21 日 (日)	たまたま子育てまつり	多 摩 区 庁 舎
麻 生	3 月 8 日 (日)	麻生区子ども会連合会 子ども会まつり	麻 生 市 民 館

(セ) 複数館による合同行事の開催

平成 26 年度も、児童の交流の輪を広げるために区単位、グループ単位で合同行事に取り組みました。主な取組は、下記のとおりです。

① 全市域合同の取組

子どもの仲間づくりや交流の広がりを促し、生きる力・創造性豊かな心・共感する心を子ども自身が身につけることを目的に、昨年に引き続き「マンカラ大会・子どもサミット」「BUNBUN ステージ」を全市域合同事業として実施しました。

「マンカラ大会・子どもサミット」は、平成 26 年 12 月 13 日 (土) に中原市民館で開催しました。マンカラ大会の予選参加者(各館の計)は 4,669 名、子どもサミットの各施設での話し合い参加者(各館の計)は 11,161 名、当日のマンカラ本選参加者及びサミット代表参加者の計は 439 名、合計 16,269 名の子どもたちの参加がありました。なお、マンカラ大会をより盛り上げるため、昨年に引き続き個人対抗勝抜き戦ではなく各館対抗勝抜き戦としました。

「BUNBUN ステージ」は、平成 27 年 2 月 14 日 (土) に高津市民館でこども文化センター・わくわくプラザ利用者、こども文化センター音楽室の利用者の日頃の活動の発表の場として開催しました。BUNBUN ステージには、創作ダンス、手品ショー、フラダンス、空手演武、中学生・高校生バンドなど、21 団体 342 名が出演しました。今年度は 2 部構成で実施したことにより、出演者の他、指導者、観覧児童、保護者、来賓の方、引率職員を含め、総勢 968 名の参加がありました。

「マンカラ大会・子どもサミット」「BUNBUN ステージ」には、財団のマスコットキャラクターの「こぶんた」「わくりん」も出演して大会を盛り上げました。

② 区単位の合同行事

区 別	開 催 日	内 容	参加数	開 催 場 所
川 崎	8月2日(土)	川崎区9館子ども文化センター合同事業 鑑賞会「イリュージョン」	212人	ふれあいプラザ かわさき
	11月8日(土)	川崎区9館子ども文化センター合同事業 「スマイルフェスタ2014 9輪ピック」	283人	富士見中学校体育館
幸	7月28日(月)	幸区6館子ども文化センター合同事業 鑑賞会「黄金の実」	145人	幸市民館
	1月24日(土)	幸区6館子ども文化センター合同事業 「さいわいキッズシティ2015」	215人	戸手小学校体育館
中 原	8月4日(月)	中原区10館子ども文化センター合同事 業 鑑賞会 「ストリンググラフィ・アンサンブルコンサ ート」(スタジオイヴ)	184人	川崎市 国際交流センター
	12月20日(土)	遊んじゃ王 ～ステージⅡ こ文レンジャー大集合～	169人	平間小学校体育館
高 津	8月7日(木)	高津区7館子ども文化センター合同事業 鑑賞会「マジックファンタジア」	641人	工ポック中原
	10月4日(土)	ウォークラリー「わくわく探検隊～写真から探 そう高津区北部～」	166人	溝口南公園～ 下作延小学校
宮 前	8月4日(月)	宮前区6館子ども文化センター合同事業 鑑賞会 「マジックファンタジア」	174人	土橋小学校
	10月19日(日)	ドッチビー大会みやリンピック ～シーズン5～	300人	向丘小学校アリーナ
多 摩	9月23日(火)	・多摩区7館子ども文化センター 合同事業 多摩キャラウォッチ	164人	生田緑地 日本民家園
	10月11日(土)	多摩区7館子ども文化センター合同事業 鑑賞会「風の子バザール」	173人	稲田小学校体育館
麻 生	9月27日(土)	・麻生区内子ども文化センター8館合同行 事 麻生キッズフェスティバ 2014～よ うこそ魔法学校へ～	287人	王禅寺 ふるさと公園
	1月10日(日)	麻生区8館子ども文化センター合同事業 鑑賞会「一寸法師」	232人	麻生市民館 大会議室

③ グループ単位の合同行事

グ ル ー プ	開 催 日	内 容	参加数	会 場
川 崎 第1G	7月12日(土)	「こぶんらんど」	111人	日進町子ども文化 センター
川 崎 第2G	12月25日(木)	「ネイチャーポイントラリー ～ゆめだるまからの挑戦!～」	90人	大師子ども文化セ ンター 大師公園芝生広場
川 崎 第3G	8月8日(金)	「わくわくマンカラ大会」	115人	東小田小学校わく わくプラザ室
幸 第1G	6月21日(土)	「はっぴー☆ウォーカー “忍者の里で大冒険”	112人	南河原公園
幸 第2G	11月29日(土)	「スポーツ&ゲーム大会 ハッピートレ ジャーハンティング」	53人	小倉小学校 体育館
中 原 第1G	11月19日(金)	「ウィンターコンサート」	100人	西丸子小学校 体育館

グループ	開催日	内 容	参加数	会 場
中 原 第2 G	12月25日(木)	「わくわく交流ドッジボール大会」	67人	住吉小学校 体育館
中 原 第3 G	7月29日(火)	「夏だ!びちゃびちゃデー」	69人	西加瀬こども文化センタートレーニング室・庭
中 原 第4 G	1月6日(火)	「わくわく交流会」	133人	大戸小学校 体育館・多目的室
高 津 第1 G	7月25日(金)	「あついで!ドッジスタジアム」	128人	下作延小学校 体育館
高 津 第2 G	7月1日(火)	「わくりんピック」	91人	東高津小学校 体育館
高 津 第3 G	1月17日(土)	「ともだち倍増計画2015ドッジボール大会」	97人	未長小学校 体育館
宮 前 第1 G	1月17日(土)	『キッズスポーツチャレンジ』	84人	宮崎小学校体育館
宮 前 第2 G	12月20日(土)	「ら・ら・ら けん玉交流会」	39人	宮前平こども文化センター 集会室
多 摩 第1 G	6月14日(土)	夜のおさんぽ in ホタルの国	39人	生田緑地「柗形山広場」及び「ホタルの里」
多 摩 第2 G	1月31日(土)	星空のギャラリー@アストロテラス	42人	かわさき宙と緑の科学館
多 摩 第3 G	12月25日(木)	ドッジボール大会	205人	中野島小学校アリーナ
麻 生 第1 G	7月1日(火)	ただいま逃走中!!&カレー大作戦	159人	百合丘小学校及び百合丘こども文化センター
麻 生 第2 G	10月25日(土)	麻生第2グループ合同事業 Oh!!カーニバル〜なりきり☆ハロウィンショー	65人	王禅寺中央小学校 体育館
麻 生 第3 G	11月22日(土)	麻生区第3グループ合同事業「チャレンジカップ2014」	40人	麻生小学校体育館

(ソ) 地域ボランティアの方々との協働推進(体験学習の拡充)

子どもたちが情操豊かに育つには、体験学習が果たす役割が欠かせません。当財団が運営しているこども文化センターやわくわくプラザでは、この体験学習を積極的に取り入れるとともに、その講師や指導者として、地域の文化伝承者や特殊な技能・知識等を持つ方々にボランティアをお願いしています。平成26年度は、けん玉や一輪車、囲碁教室、音楽コンサート、科学実験、腹話術、お茶会、ベビーマッサージ、ダンス教室、収穫体験などを開催・実演していただき、子どもたちに貴重な体験学習の機会を提供していただきました。

(タ) 施設等の修繕・整備への取組

① 大規模・軽易修繕について

老朽化が進んでいるこども文化センターの中には建替え又は大規模修繕が必要なものがいくつかあります。今後、こうした施設の取扱いについて市との協議を進めるため、平成26年度は、53館全てのこども文化センターの施設を巡回し、施設状況の確認を行い、基礎資料の作成に取り組みました。

30万円以上の修繕に関しては基本的には市の案件ですが、利用者の利便性や安全

面を考慮し、市と協議し、指定管理者が実施することも可能となっています。今年度は、旭町こども文化センターの自動ドア修繕や錦ヶ丘こども文化センターのロビースペース改修その他 35 箇所の軽易修繕（30 万以上）を行いました。

② 小破修繕について

施設や用具等の安全管理については、日ごろから点検を欠かさず、破損や故障に迅速に対応することが必要です。

平成 26 年度は、こども文化センターの表示板等が欠損している施設について、施設の壁面に施設名を記入するほか、こども文化センター及びわくわくプラザの建具の補修・壁紙の張替・破損個所の修復・非常階段の修繕を行いました。また、衛生面の観点から、冷水機の清掃、トイレ床タイル張りを行うなど、快適で安全な施設環境作りに取り組みました。

(チ) 財政基盤の安定確保と円滑な事業運営

指定管理業務の円滑な運営のため、特定費用準備資金等取扱規則に基づき、特定費用準備資金や資産取得・改良に充てる資金を計画的に保有し、財政基盤の安定確保を図りました。

イ 子育て支援・わくわくプラザ事業

「子育て支援・わくわくプラザ事業」とは、平成 20 年 4 月から川崎市が実施している事業で、就労等により、わくわくプラザの門限である午後 6 時までに児童の迎えが難しい保護者のため、午後 7 時までわくわくプラザを延長するサービスのことで、当財団は、この業務を川崎市から受託し、全わくわくプラザにおいて実施しました。

児童の登録及び利用状況の推移は、次のとおりです。

年 度	登録児童数	延べ利用人数	1 日平均利用人数
24 年度	1,949 (63) 人	114,840 (5,197) 人	468 (21) 人
25 年度	2,029 (60) 人	113,120 (4,687) 人	463 (19) 人
26 年度	2,207 (78) 人	123,550 (5,940) 人	506 (24) 人

* () 内は特別な支援を必要とする児童の内数

ウ 地域子育て支援センター（児童館型）

「地域子育て支援センター（児童館型）」とは、こども文化センター（比較的利用の少ない午前中）を、子育て中の親子の交流の場や子育てに関する相談・援助の場として、また地域の子育て情報の提供の場として提供するというもので、川崎市が実施している地域子育て支援事業一つです。

当財団は、この業務を今年度、10ヶ所で受託し、「ふぁみいゆ」という名称で週 3 日（9:30～12:30）開設し、多くの乳幼児親子が利用しています。

平成 26 年度の利用状況は、下記のとおりです。

区	地域子育て支援センター名	年 度	利 用 者 人 数		
			児 童	大 人	合計人数
川 崎	ふぁみいゆ殿町	24 年度	2,564 人	2,432 人	4,996 人
		25 年度	2,237 人	2,011 人	4,248 人
		26 年度	2,543 人	2,265 人	4,808 人
	ふぁみいゆ田島	24 年度	1,070 人	1,000 人	2,070 人
		25 年度	1,251 人	1,176 人	2,427 人
		26 年度	1,760 人	1,520 人	3,280 人
	ふぁみいゆ浅田	24 年度	1,784 人	1,463 人	3,247 人
		25 年度	2,215 人	1,921 人	4,136 人
		26 年度	2,672 人	2,173 人	4,845 人

区	地域子育て支援センター名	年 度	利 用 者 人 数		
			児 童	大 人	合計人数
幸	ふぁみいゆ南河原	24 年度	3,820 人	3,401 人	7,221 人
		25 年度	2,569 人	2,383 人	4,952 人
		26 年度	3,365 人	3,197 人	6,562 人
	ふぁみいゆ幸	24 年度	2,380 人	2,203 人	4,583 人
		25 年度	2,748 人	2,572 人	5,320 人
		26 年度	2,398 人	2,257 人	4,655 人
	ふぁみいゆ小倉	24 年度	2,348 人	2,011 人	4,359 人
		25 年度	2,083 人	1,871 人	3,954 人
		26 年度	2,197 人	1,917 人	4,114 人
中 原	ふぁみいゆ新丸子	24 年度	2,773 人	2,624 人	5,397 人
		25 年度	3,165 人	2,884 人	6,049 人
		26 年度	3,733 人	3,418 人	7,151 人
	ふぁみいゆ平間	24 年度	2,055 人	1,722 人	3,777 人
		25 年度	2,155 人	1,855 人	4,010 人
		26 年度	2,472 人	2,234 人	4,706 人
麻 生	ふぁみいゆ千代ヶ丘	24 年度	2,584 人	2,427 人	5,011 人
		25 年度	2,654 人	2,359 人	5,013 人
		26 年度	2,134 人	1,964 人	4,098 人
	ふぁみいゆ柿生	24 年度	1,430 人	1,338 人	2,768 人
		25 年度	1,365 人	1,141 人	2,506 人
		26 年度	1,725 人	1,536 人	3,261 人

エ その他の取組

(ア) 実践集の発行

平成 26 年度も、各こども文化センター及びわくわくプラザの 1 年間の活動記録等を実践集として編集し・発行しました。

今後、各館の参考資料として、また関係者への広報誌として、活用を図ります。

(イ) 児童館教育実習生の受け入れ

今期は、19 名の実習生を 19 館のこども文化センターで受け入れました。内訳は、次のとおりです。

依 頼 学 校 名	人 数	実 習 場 所	実習期間
有明教育芸術短期大学	2 人	浅田こども文化センター	12 日
		大戸こども文化センター	
上智社会福祉専門学校	3 人	大師こども文化センター	12 日
		東百合丘こども文化センター	
		井田こども文化センター	

依頼学校名	人数	実習場所	実習期間
東京福祉大学	1人	下平間こども文化センター	12日
町田福祉保育専門学校	1人	中野島こども文化センター	10日
小田原女子短期大学	4人	柘形こども文化センター	10日
		錦ヶ丘こども文化センター	
		王禅寺こども文化センター	
		麻生こども文化センター	
東洋大学	1人	宮崎こども文化センター	12日
東京未来大学	1人	有馬こども文化センター	12日
帝京学園短期大学	1人	新城こども文化センター	12日
目白大学	3人	旭町こども文化センター	12日
		幸こども文化センター	
		上作延こども文化センター	
東京YMCA社会体育・保険専門学校	1人	二子こども文化センター	12日
東京立正短期大学	1人	柿生こども文化センター	12日

(ウ) 職業体験・まち探検（社会科見学）の受け入れ

ふれあい体験学習は、高校生 50 名を平間こども文化センターで受け入れました。

職業体験・まち探検（社会科見学）については、小中学校生延べ 2,827 名を 47 館のこども文化センターで受け入れました。内訳は次のとおりです。

① ふれあい体験学習 高等学校生の受け入れ

依頼学校名	人数	実習場所	実習期間
県立川崎工科高等学校	50人	平間こども文化センター	4日

② 職業体験 小・中学校生の受け入れ

依頼学校名	人数	実習場所	実習期間	
川崎	川崎 中学校	22人	日進町こども文化センター	3日
	臨港 中学校	9人	田島こども文化センター	5日
	京町 中学校	3人	浅田こども文化センター	1日

依 頼 学 校 名		人 数	実 習 場 所	実 習 期 間
幸	戸手 小学校	20人	幸こども文化センター	2日
	南加瀬 中学校	4人	南加瀬こども文化センター	2日
	日吉 小学校	9人	北加瀬こども文化センター	1日
	日吉 中学校	2人	北加瀬こども文化センター	1日
	塚越 中学校	4人	北加瀬こども文化センター	2日
中原	中原 中学校	10人	小杉こども文化センター	2日
	西中原 中学校	2人	小杉こども文化センター	1日
	今井 中学校	2人	住吉こども文化センター	1日
	中原 中学校	10人	新丸子こども文化センター	2日
	西中原 中学校	4人	新城こども文化センター	1日
	西中原 中学校	2人	大戸こども文化センター	1日
	宮内 中学校	4人	宮内こども文化センター	1日
高津	東橘 中学校	8人	高津こども文化センター	2日
	宮内 中学校	4人	東高津こども文化センター	1日
	東高津 中学校	4人	東高津こども文化センター	1日
	東橘 中学校	12人	子母口こども文化センター	2日
	宮崎 中学校	4人	梶ヶ谷こども文化センター	1日
宮前	有馬 中学校	12人	有馬こども文化センター	2日
多摩	宿河原 小学校	96人	柘形こども文化センター	12日
	生田 中学校	14人	柘形こども文化センター	2日
	宿河原 小学校	162人	長尾こども文化センター	12日
	稲田 中学校	14人	長尾こども文化センター	1日
	生田 中学校	8人	三田こども文化センター	2日

③ まち探検（社会科見学） 小・中学校生の受け入れ

依 頼 学 校 名		人 数	実 習 場 所	実 習 期 間
川 崎	旭町 小学校	20人	旭町こども文化センター	1日
	川崎 小学校	134人	日進町こども文化センター	3日
	田島 小学校	30人	渡田こども文化センター	1日
	藤崎 小学校	33人	藤崎こども文化センター	2日
	川中島 小学校	8人	大師こども文化センター	1日
	殿町 小学校	5人	殿町こども文化センター	1日
	新町 小学校	49人	小田こども文化センター	1日
	小田 小学校	27人	小田こども文化センター	2日
	東大島 小学校	10人	藤崎こども文化センター	1日
	渡田 小学校	8人	田島こども文化センター	1日
	浅田 小学校	5人	浅田こども文化センター	1日
	向 小学校	7人	渡田こども文化センター	1日
	東小田 小学校	12人	小田こども文化センター	1日

依 頼 学 校 名		人 数	実 習 場 所	実 習 期 間
幸	古川 小学校	38人	幸こども文化センター	1日
	戸手 小学校	9人	幸こども文化センター	2日
	夢見ヶ崎 小学校	59人	南加瀬こども文化センター	1日
	小倉 小学校	61人	小倉こども文化センター	1日
中原	上丸子 小学校	34人	新丸子こども文化センター	2日
	西丸子 小学校	37人	新丸子こども文化センター	2日
	住吉 小学校	75人	住吉こども文化センター	1日
	下小田中 小学校	118人	井田こども文化センター	2日
	平間 小学校	4人	平間こども文化センター	1日
	木月 小学校	31人	西加瀬こども文化センター	1日
	苅宿 小学校	7人	西加瀬こども文化センター	1日
	住吉 中学校	1人	西加瀬こども文化センター	1日
	新城 小学校	30人	新城こども文化センター	1日
	大谷戸 小学校	51人	大戸こども文化センター	2日
宮内 小学校	179人	宮内こども文化センター	2日	
高津	上作延 小学校	83人	上作延こども文化センター	3日
	東高津 小学校	269人	東高津こども文化センター	6日
	未長 小学校	30人	未長こども文化センター	2日
	坂戸 小学校	12人	二子こども文化センター	2日
宮前	西有馬 小学校	17人	有馬こども文化センター	1日
	宮崎台 小学校	13人	宮崎こども文化センター	1日
	野川 小学校	22人	野川こども文化センター	1日
	南野川 小学校	92人	野川こども文化センター	2日
	富士見台 小学校	24人	宮前平こども文化センター	1日
	宮崎台 小学校	13人	宮前平こども文化センター	1日
	向丘 小学校	16人	平こども文化センター	1日
	白幡台 小学校	20人	白幡台こども文化センター	1日
多摩	東生田 小学校	18人	桁形こども文化センター	2日
	稲田 小学校	180人	長尾こども文化センター	3日
	南生田 小学校	38人	錦ヶ丘こども文化センター	2日
	生田 小学校	62人	錦ヶ丘こども文化センター	1日
	三田 小学校	42人	三田こども文化センター	1日
	菅 小学校	3人	菅こども文化センター	1日
	南菅 小学校	5人	南菅こども文化センター	1日
	中野島 小学校	39人	中野島こども文化センター	1日

依頼学校名	人数	実習場所	実習期間	
麻生	百合丘 小学校	14人	百合丘こども文化センター	3日
	真福寺 小学校	2人	白山こども文化センター	1日
	千代ヶ丘 小学校	98人	千代ヶ丘こども文化センター	1日
	王禅寺中央 小学校	11人	王禅寺こども文化センター	1日
	虹ヶ丘 小学校	33人	虹ヶ丘こども文化センター	2日
	柿生 小学校	114人	柿生こども文化センター	1日
	東柿生 小学校	77人	柿生こども文化センター	2日
	麻生 小学校	35人	麻生こども文化センター	2日

(エ) 中学生・高校生ボランティアの受け入れ

依頼学校名	人数	実習場所	実習期間
洗足学園中学校	1人	新丸子こども文化センター	1日
大東学園高等学校	1人	末長こども文化センター	3日
晃華学園中学校	4人	枅形こども文化センター	2日
世田谷学園中学校	3人	三田こども文化センター	3日

(オ) 教員研修「体験活動」の受け入れ

平成26年度の受け入れの内訳は、次のとおりです。

依頼学校名	人数	実習場所	実習期間
神奈川県立市ヶ尾高等学校	1人	南菅こども文化センター	3日

(カ) チャレンジボランティア（夏期）の受け入れ

平成26年度の受け入れの内訳は、次のとおりです。

主催者	人数	受入場所	受入期間
川崎市社会福祉協議会	24人	幸こども文化センター	4日

(キ) ホームページのリニューアル

平成26年9月1日に、青少年健全育成事業及び各こども文化センターのホームページをリニューアルしました。

利用者が見やすく、作成者が簡単に作業できるホームページにするため、新しいシステム（いくくるウェブ、(株)スマートバリュー）を導入し、サイト構成・デザインや業務フローの改善を図りました。

また、新たにアクセス解析システム（google analytics）を活用し、利用実態を把握することが可能になりました。

(ク) 地域メディアの活用

地域メディアを活用し、地域の方々にこども文化センターの場所や事業を広報することで、利用者の増加を目指しています。平成26年度の取組は、以下のとおりです。

① かわさきFM

毎月第1日曜日に、こども文化センターの紹介コーナー「こども文化センター みんな☆元気が〜い！」が放送されています。このコーナーでは、各こども文化センターを順番に紹介し、53館すべてのこども文化センターが登場する予定となっています。平成26年度末で8館のこども文化センターが紹介されました。

② 東急沿線のケーブルテレビ「イツコム」

東急沿線のケーブルテレビ「イツコム」で平成 26 年 8 月 7 日に開催された高津区合同鑑賞会「マジックファンタジア」の様子が放送されました。

オ 事故報告

わくわくプラザにおける事故件数は、過去 3 年減少傾向にあります。

この減少傾向は、館長会議で事故を共有し、同様の事故を起こさないようにしていることや、適切な見守り配置の再確認、子どもたちへの声掛けの強化、準備運動の徹底が、少しずつ実を結んできている表れではないかと思えます。また、平成 25 年度に購入したランシーバーの活用によって、見守り中の連絡が円滑になったことや、ビブス（ゼッケン）を着用させたことで一般校庭利用児童と登室児童の見分けが付きやすく見守りがしやすくなったことも減少理由の一つと考えられます。

過去 5 年間のわくわくプラザにおける事故の件数は、次のとおりです。

月	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
4 月	28 (6) 人	43 (13) 人	16 (4) 人	21 (3) 人	17 (8) 人
5 月	23 (6) 人	14 (4) 人	29 (6) 人	15 (4) 人	15 (3) 人
6 月	27 (8) 人	21 (7) 人	28 (9) 人	14 (9) 人	13 (1) 人
7 月	24 (4) 人	17 (7) 人	20 (6) 人	19 (7) 人	16 (3) 人
8 月	16 (4) 人	17 (5) 人	15 (3) 人	13 (4) 人	7 (0) 人
9 月	7 (4) 人	21 (6) 人	11 (2) 人	10 (1) 人	10 (5) 人
10 月	14 (3) 人	20 (9) 人	16 (6) 人	11 (6) 人	14 (5) 人
11 月	20 (7) 人	19 (7) 人	19 (6) 人	12 (0) 人	8 (1) 人
12 月	13 (4) 人	16 (4) 人	14 (1) 人	8 (1) 人	13 (4) 人
1 月	5 (0) 人	7 (1) 人	12 (2) 人	8 (0) 人	7 (1) 人
2 月	4 (0) 人	2 (0) 人	7 (3) 人	3 (1) 人	8 (2) 人
3 月	16 (4) 人	20 (4) 人	7 (2) 人	14 (8) 人	16 (3) 人
計	197 (50) 人	217 (67) 人	194 (50) 人	148 (44) 人	144 (36) 人

() は、4 日以上通院の事故件数の内数

(3) 法人の運営

当財団は、市民活動の中間支援組織として市民相互の連携を図りながら市民活動の活性化を促進するとともに、青少年の心身の健全な育成を図るために、青少年事業の推進及び地域組織への支援を目的として設立されました。

2010（平成22）年に公益財団法人としての認定を受けたことから、この間、効果的な公益事業の実施と、法人としての役割・機能が発揮できる組織づくりを本部と現場が一体となって取り組んできました。また、当財団の実施している事業や財務に関して広く市民へ説明する責務を自覚して法人の運営を行いました。

ア 業務・組織の改革

法人全体の業務改善に取り組むとともに、事業計画の進捗管理を着実にを行い、コスト削減や効果的な事業の実施等を通じて、経営基盤の強化を図り組織の総合力の向上に努めました。組織としての一体感の醸成や職員のスキルアップを図るための各種研修の実施等、職員の意識改革の促進と人材育成に取り組みました。

また、平成27年度には、平成28年度から平成32年度までの5年間のこども文化センターの指定管理業務の選考がなされることから、平成25年度から実施しているエリア単位のマネージャーと館長職との連携強化をさらに推進するために、適正な人事配置の実施など業務執行体制の強化と合わせて、組織体制の整備を図りました。

イ 財務改善

経理・会計処理では、公益法人会計基準に準拠した会計を確実に行うために、平成25年9月1日からP C A公益法人会計ソフトを導入して実施しています。平成26年度からは諸謝金の会計処理の業務委託を取り止め、経理担当で直接実施することにより会計経費の削減を図りました。また、当期は特定費用準備資金積立資産を取崩して、青少年事業の備品交換を行いました。引き続き、適正な会計処理の実施に向けて経理事務の改善を推進するとともに、安定した公益財団法人の経営を維持するために適切な財務管理を実施します。

ウ その他

平成25年度の事業報告書等の提出については、関係書類等を作成し監事監査を経て理事会及び評議員会（定時評議員会）での承認を受け、平成26年6月25日に行政庁へ送信しました。関係書類等については事務所に備え置くとともに、貸借対照表を公衆の見やすい場所に掲示しました。

平成27年度の事業計画書等の提出については、平成27年3月10日の第4回理事会での承認を受け、3月26日に行政庁に送信しました。

また、公益認定後の初めての立入検査が、平成26年1月30日に実施されました。当法人の認定登記が平成22年7月1日なので、認定後3年半余り経過してからの立入検査となりましたが、特に指摘事項はありませんでした。なお、第2回は直近の立入検査実施後3年（平成28年度）以内に実施される予定です。